

春のうちに牛伝染性リンパ腫（EBL）の対策をしましょう！

EBLの発生頭数は増加傾向にあり、農場内でのまん延も増えています。陽性牛の急激な増加により、感染防止対策が追いついていないのが現状です。

EBLは、吸血昆虫（アブ、サシバエ等）による血液の媒介等により感染します。感染牛由来のリンパ球 1,000 個、血液量でいうと約 $1 \mu\text{l}$ で感染が成立するといわれ、吸血昆虫の口に付着した程度の血液でも感染する可能性があると考えられています。そのため、吸血昆虫対策や牛群の隔離等が重要となります。その他、除角や去勢、削蹄等の出血を伴う作業でも、器具を介し感染する危険があるため、器具の洗浄・消毒を徹底し、また陽性母牛の哺乳により子牛に感染するため、早期離乳や陽性母牛の隔離等の対策も必要となります。

近年は温暖化の影響もあり、吸血昆虫が活動を始める時期も早くなっている印象です。安心して夏を迎えられるよう、春のうちに対策を実施しましょう。



○アブ
発生時期：
6～9月の暑い時期
（特に昼間）
発生源：湿地、草地



○サシバエ
発生時期：
夏前、秋の比較的
涼しい時期
発生源：糞便、堆肥

<感染対策例>

・牛房間に防虫ネットを設置

吸血昆虫が、吸血後すぐに他の牛へ移動できなくするだけでも効果が見込めます。

・陽性牛と陰性牛を1房分（約5m）離す

感染リスクが高い（保有ウイルス量が多い）牛は、唾液中にウイルスを排出する場合があります。

・つなぎ飼いの場合、牛群の並び替え

牛舎、牛房を分けるのが困難な場合、陰性→感染リスク低→感染リスク高の順に牛を並べましょう。

・吸血昆虫対策

アブは農場周囲の草刈りやアブトラップの利用等により対策しましょう。

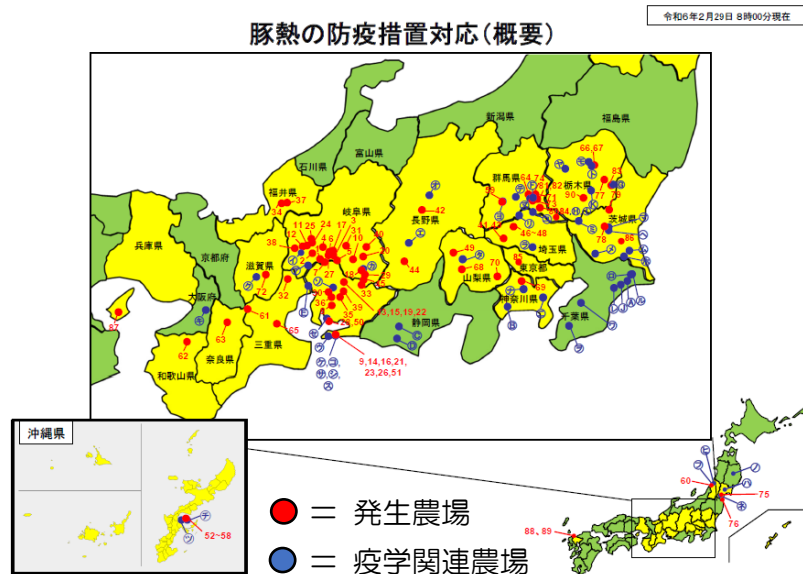
サシバエは農場内のこまめな清掃（特に堆肥舎、給水器など）が効果的です。

※牛舎の構造や感染状況等、各農家によって有効な対策が異なります。
対策を希望される場合は、城南家畜保健衛生所までご相談ください。

豚熱の発生が続いています…

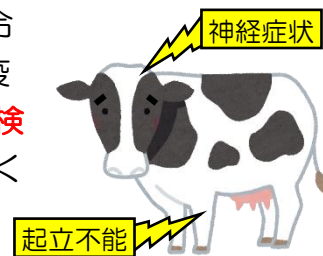
令和6年2月16日に栃木県での発生が確認され、国内で90例目の発生となりました。九州では佐賀県での発生以降、養豚場での発生はなく、野生イノシシのサーベイランス検査においても陽性イノシシは確認されていませんが、油断できない状況が続いています。

春はイノシシの繁殖期であり、野生イノシシの数が増加することが予想されます。ワクチンは発生防除の効果을期待できますが、ワクチンのみでは豚熱の感染・発生を防ぎきれません。ワクチンの適正接種に加え、飼養衛生管理基準等を徹底しましょう。また、イノシシは農場のどこから接触・侵入するかわかりません。農場入り口の消毒等だけでなく、柵の補修・強化等、対策を実施しましょう。



令和6年4月より、BSE 検査対象牛が変更されます！

現在は、特定症状を示している場合以外で①48ヶ月齢以上かつ神経症状・起立不能等を呈している牛、②96ヶ月齢以上の全ての牛が対象となっていました。令和6年4月から「牛海綿状脳症（BSE）に関する特定家畜伝染病防疫指針」が改正され、検査対象が**神経症状・起立不能を呈し、獣医師が検査を必要と判断した牛**となり、月齢による判断がなくなります。詳しくは、来月4月号でお知らせします。



近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	台湾	家きん(12件)	1月~2月
		韓国	野鳥	1月4日
	H5N6	韓国	野鳥	2月4日
		韓国	肉用あひる 野鳥	2月8日 2月6日
アフリカ豚熱		韓国	野生いのしし(201件)	2月

令和6年(2024年)3月1日現在

家保職員から一言



最近、暖かくなったと思ったらまた気温が下がり冬に逆戻りするなど、難しい気候となっています。気温変動がある時期には、病畜が増える印象です。畜舎の見回り等をこまめに行い、早期発見、早期治療を心がけましょう。

今年度も早いもので残り1ヶ月となりました。当所の家畜防疫業務に御理解・御協力いただき、ありがとうございました。

来年度もよろしくお願いいたします。